



●Kero Kero 通信●

第 313 号



崎山小児科・院内報

4 月 2025 年

テーマパーク

文化や国、時代、キャラクターなど特定のテーマに合わせて全体を演出する大規模な観光施設をテーマパークと言います。ディズニーランドや USJ を思い浮かべる人も多いでしょう。卒業や進学がある春休みは大きな宿題が出るのが少なく、〇〇ランドや△△園などで楽しい時間を過ごす子どもも多いようです。

テーマパークは子どもだけでなく大人も楽しめます。見るもの、聞くもの、食べるもの、風景や体験できることが統一されたテーマに沿って一貫しているので、そこにいる人を裏切らない安定感があります。施設によっては宿泊する部屋もキャラクターに溢れていて、夢の中にも出てくるのではないかなと思わせてくれます。家族で、あるいは友達同士と一緒に同じ体験をする、同じ楽しさを共有することは大切な思い出の一コマになります。実はテーマパークだけでなく、野球やサッカーなどのスポーツ観戦、音楽関係のライブ、美術館、映画や舞台、北海道や沖縄のツアーなども特定の主題に沿った楽しい体験の一つです。

子どもとどのように遊んでいいのかわかならぬ。そんな感覚を持つ親が増えているそうです。一緒にどこかに出かけることはできても、ただ一緒にいるだけでは時間を持て余す、何をしたらいいのかわからない、子どもを楽しませる術がない、素直にそのような感覚を表現できることは間違ったことではありません。おそらくご自身が「用意されたテーマがなくても子どもと楽しめる」という経験値が小さいのでしょう。子どもは遊びの天才です。ただ広い空間にただで、棒を一本持っているだけで、風が強く吹いているだけで、何かの遊びを思いつきます。即席のルールを作って友達と共有して、一つの遊びを作り上げてしまうこともできます。テーマパークでは演出が決まっていますが、その内容を熟知していればそこでの遊び方も自ずと決まりますが、自宅や公園で子どもと遊ぶときは自由な子どもの遊び心に大人が合わせてみてはいかがでしょうか。

ウォルトディズニーは「すべての子どもは、鮮やかに彩られた想像力に恵まれている」と述べていて、その想像力を具体化したものがディズニーランドです。子どもの想像力に入り込むことそのものがテーマパークの原点です。むしろ想像力の弱い大人の方が知識に沿って楽しめるテーマパークを好むのかもしれませんが。



うんちをめぐる世界

東京ドームシティで開催されている『うんち展：No UNCHI, No LIFE』（会期：5/18 まで）に行ってきました。哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類など多様な動物の凍結乾燥された「実物うんち」と「落とし主」である動物のはく製標本、映像やパネルとともに自然界でのうんちの役割などの展示もあり、多様なうんちの世界を体験できます。日頃トイレに流してしまうだけのうんちも自然界の中ではコミュニケーションのツールだったり、大切な食べ物や住処だったり様々な役割を担っています。変わった用途のうんちをいくつか紹介します。

・自己PRのうんち



カバはうんちが肛門から出た瞬間に激しく尻尾を振り回し、周りにまき散らすことがあります。これによりなわばりの主張や、自分が歩いた道に戻るための道しるべとしているようです。

・SNSうんち

タヌキは複数の個体が同じ場所でうんちをする習性があり、そうしてできたうんちの集まりを「ため糞」と呼んでいます。ため糞を訪れたタヌキは臭いを嗅いでどんな個体が訪れているのか、ほかのタヌキが何を食べているかなどの情報を得ているようです。臭いを嗅ぎ終わると自分もその上にまた新しいうんちを乗せて立ち去ります。

・食べるうんち

ウサギは硬便と軟便の2種類のうんちをします。植物は動物にとって消化しにくい食べ物で、消化管を一度通っただけでは栄養を十分に吸収できません。そこでウサギは食べた植物の一部を発酵させ、ビタミンやたんぱく質が豊富に含まれる軟便を作り、食べることで栄養を吸収しやすくしています。

・肥料うんち

サケが遡上する地域ではサケを食べたヒグマが森でうんちをすることで窒素分など海の栄養が森に運ばれています。

・粘土うんち



サイチョウの仲間は交尾後、巣穴にメスがこもると泥とうんちを混ぜたものを入りに塗り、くちばしだけが通る大きさまで塞いでしまいます。ひなが孵化し、無事に巣立つまでの間、その穴からオスがエサを与え続けます。

うんちは「臭い！汚い！」だけではありません。トイレで流してしまう前に自分のうんちを観察してみるとたくさんの情報がつまった奥深いうんちの世界を知ることができるかも！？

4 月から新年度になります。MR II 期・HPV ワクチンの対象学年の方は忘れないうちに早めの接種をお勧めします。